

業界TOPICS

トピックス

コミュニケーションツール「バナナ名刺」を最大限に活用、CSRも実現

～丸吉日新堂印刷が取り組むバナナペーパー・プロジェクト

丸吉日新堂印刷(株) (札幌市) は、約4年前からバナナの茎を原料にした紙による「バナナ名刺」を商品化。エコ名刺として扱いを開始した。

名刺は最大のコミュニケーションツール

日本でのビジネスでは必要不可欠な名刺。これをコミュニケーションツールとして最大限に活用することを実践しているのが同社の阿部社長だ。顔写真のほか出身中学・高校・大学・趣味など「可能な限り詳しい情報を印刷した名刺は、初めて会う人との共通点を引き出し会話がはずむきっかけをつくることができる」というのが阿部社長の持論だ。

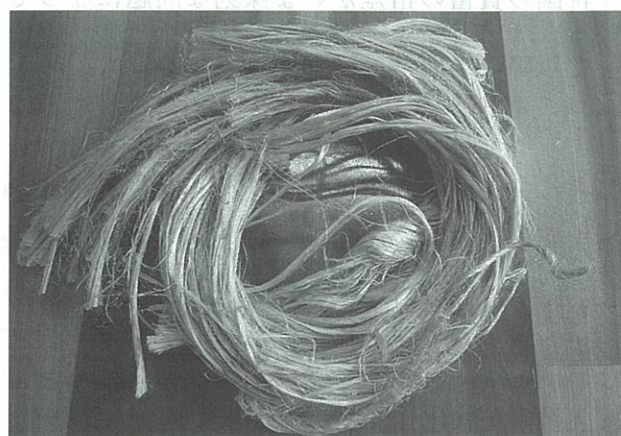
「人前で話すことは不得意だった」という阿部社長が実感した効果をもとに名刺内容の提案も行う。しかし、台紙自体に特徴があれば、さらに印象に残りコミュニケーションが深まる名刺になり得る。

バナナで紙をつくる

同社の再生紙等を利用した「エコ名刺」のひとつが「バナナ名刺」。台紙は、アフリカ・ザンビア共和国で栽培するバナナの茎が原料の「バナナペーパー」だ。実を収穫後、これまでは伐採・廃棄していた茎を乾燥させ、原料に利用している。

同社がバナナ名刺を作ったきっかけは、同社のエコ名刺ユーザーだったスウェーデン出身の環境コンサルタント、ベオ・エクベリ氏。エクベリ氏は、私財でザンビア共和国での支援活動を行ってきたなか、バナナペーパーを作り名刺にえばCO2削減や就労機会創出につながるのではないかと思い、阿部社長に相談した。

同社は、早速、エクベリ氏とともに「バナナペーパー・プロジェクト」に取り組み、現地での加工や輸出の仕組み作りを一から開始した。



エコ名刺の原料となるザンビア産バナナの茎の繊維そして日本の製紙工場の協力を得て「バナナペーパー」が完成した。

* * * * *

ザンビア共和国は、深刻な貧困問題を抱える国のひとつで、成人男性1日の労働賃金は約1ドル。就労経験のある女性は珍しいという。豊かな自然に恵まれており、家の近くに作物が生えていると夜中に野生動物が来て食べ尽くしてしまうほか、食べ物に近づいてきた象に家を踏みつぶされることもあるため、農業ができない環境にある。一方で公用語は英語であり、アフリカでは比較的治安がよく、ビジネスを行いやすい環境が背景にあった。

4000人のバナナ名刺利用がひとつの村を支える

「バナナペーパー・プロジェクト」により、現在、国立公園近くの村で30人弱の女性が就労しており、これにより夕飯の食べ物を市場で買うことができるようになったという。

同社によれば、概算で約4000人の社員がいる会社がバナナ名刺を使用すれば、1年間、ザン

ビア共和国のひとつの村 (30家族200名程度) の就労機会を提供できるという。

問題は、バナナ名刺は原料を輸入するために通常の名刺と比較し価格は2～3割ほど高いという点にあるが、最近では日本でもCSR (社会的責任: 法令順守・利益貢献のほか、より高次の社会の要請に応えるべきという考え) が浸透し始め、CSRそのものが企業のサービス・商品とともに企業の大きなPRポイントになる。

また、バナナ名刺の由来や意味を通じ、コミュニケーションツールとしての名刺の意義がさらに高まるともいえる。

中小企業が実現可能な「CSR」

最近では、この活動に共感する個人・法人、国内外を問わず増えており、同社のエコ名刺を利用する人の輪が広まりつつある。同社ではバナナ名刺のほか、ペットボトル再生紙をはじめ、とうきび・帆布・ケナフ・琵琶湖のヨシ・桜・ミルク・竹など、全15種類の原料と古紙による「エコ名刺」を作成している。

バナナ名刺によるザンビア共和国での就労機会創出およびフェアトレードに関わると同時に、同社はエコ名刺全体の売り上げの1%を「1% for the Planet」を通して自然環境保護非営利団体もしくは財盲導犬協会へも募金しており、エコ名刺を利用した個人・企業は、社会貢献を果たすことになる。

「人の輪」「善意の輪」を広めるために

同社は、少しずつ広がり始めたエコ名刺の「人



阿部晋也 社長

の輪」を通じ、ユーザーへの感謝の意味も込めて、国内各地でエコ名刺交流会も実施している。ユーザーにはさまざまな業界の専門家も多数いることから、毎回、ユーザーに講師を依頼し、講演会と親睦会を行っている。これにより、さらに名刺を通じた交流の場が生まれ、今年10月にはユーザーの要望により、東京での開催も実現した。

また、このような広がり背景に、同社の活動は「ちっちゃいけど世界一誇りにしたい会社」(坂本光司著・ダイヤモンド社) や、今年2月にはNHKBSハイビジョンの番組「MISSION」で紹介されるなど、注目を集めている。

名刺印刷は、細かい仕事で利幅も少ないことから、積極的に手がける企業は減少傾向にある。しかし、同社の阿部社長は、名刺に付加価値をつけることで名刺の効果を最大限に活用し、さらに「あと1年半から2年でエコ名刺事業単体での採算がとれるまでに成長できる見通し」のため、少しずつ利用者を拡大し「善意の輪」を広げたいという。そして名刺を通じて手軽に参加可能な環境対策・貧困対策への取り組みの輪を国内外へ広めたい考えだ。

このため、エコペーパーの販売も行うほか、同業他社にも協力してもらい、この取り組みを大きな輪にしていきたい意向で、「エコ名刺を手がける印刷業者の輪も広げていきたい」と話している。

丸吉日新堂印刷(株)

〒062-0936 札幌市豊平区平岸6条12-11-2

TEL: 011-837-9636

<http://www.nissindou.co.jp/>



わらがみ名刺

マガジンペーパー
再生名刺

バナナ名刺

琵琶湖のヨシ
名刺